

# Tahara

田原市ホームページ <http://www.city.tahara.aichi.jp>

2012  
平成24年

11.15

電照がおりなす  
幻想の風景！

目次

「しみんの広場」	2
広報サポーターだより「電照菊」	
「たね、の「産直レシピ」	
地域の話	
市民活動を応援するページ	
スクールレポート	6
学校生活の一コマを紹介	
たはらしティニュース	7
連載コーナー	8
おしらせ	10
歴史探訪クラブ	12



# しみんの広場

CITIZEN'S PLAZA

## もくじ

- 広報サポーターだより……………2ページ
- たねの簡単&おもしろ『産直レシピ』…3ページ
- 地域の話(田原東部校区)……………4ページ
- 市民活動を応援するページ……………5ページ

## 広報サポーターだより

# 電照菊の夜景に変化が！その秘密を探る！

市民発

皆さんこんにちは。広報サポーターの鈴木理絵です。菊の生産量日本一を誇る田原市では、年間を通じて生産できるよう、さまざま工夫がされています。この時期に見られる電照菊もその一つで、美しい夜景を楽しもうと観光客が訪れています。今回は、その栽培方法が変わりつつある電照菊と、最新の温室栽培の様子取材してきました。



●菊栽培の温室



●菊栽培の様子



●菊栽培について話す伊藤友雄さん



●LED照明



電照菊の赤色の照明の秘密は…

鈴木理絵 (清田校区)

## 電

照菊とは、花芽ができる前  
の時期に電照し、人工的に  
日照時間を長くすることで開花時  
期を遅らせる栽培方法です。これ  
により、菊の需要が最も多い正月  
から春の彼岸の間に出荷できるよ  
うになりました。最近では、省エ  
ネの時代に合わせ、LED照明が  
導入されるなど栽培方法も変わり  
つつあります。

実際に、赤色LED照明を菊栽培に用いている菊農家の伊藤友雄さん(高松町)にお話を伺いました。伊藤さんは、菊栽培をしている仲間と一緒に、国の補助金制度を使って、3年前に所有するハウスの3か所を蛍光灯から赤色LED照明に替えました。「LEDは、もともとハウスにある電気配線に電球を付け替えればいいので、導入しやすいですよ」と話す伊藤さ

ん。照明の耐用年数が長くなり、消費電力もかなり抑えることができそうです。肝心の菊の生育状況については、蛍光灯に比べ何らか見劣りしないといいます。むしろ、赤色のLED照明を使うことにより菊の開花が抑制され、効率的だと話してくださいました。今は、試験的に青色のLED照明を一部分に導入し、生育状況にどのような変化があるかを調査しているそうです。

伊藤さんが生産するのは黄色の菊で、出荷先は東日本大震災の被災地である東北地方。東北地方の業者の方が伊藤さんの菊を気に入り、買い取りに来るといいます。「自分が育てた菊で、東北地方の人たちが元気になってくれたらうれしいです」と話す伊藤さんの笑顔はとても輝いていました。



## 田

原市は、全国的に見ても、太陽光や風力などの自然エネルギーに恵まれている地域です。

この好条件を生かし、二酸化炭素などの温室効果ガスの排出を抑える栽培方法を実証するためのモデルハウスが大久保町にあります。

このハウスでは、ソーラーパネルを天窓部と日当たりのいい南側の地面に取り付け、照明などの電力をまかなっています。重油は使わずに、電力でヒートポンプによる暖房が行われています。夜間の照明も従来の白熱電球などではなく、消費電力がより少ないLED照明が使用され、LED照明などに使用するための電力を貯めることもできます。

### ●低炭素モデルハウス

田原市、愛知みなみ農業協同組合、インゲ口農芸有限会社などで構成する田原市低炭素施設園芸づくり協議会が、低炭素施設園芸を実現するために実証実験をする施設。平成22年11月から、菊の栽培実証をしています。



### ●問い合わせ先

田原市低炭素施設園芸づくり協議会(農政課内)  
☎23局3517

HP <http://teitankyo-tahara.jp/>

他にも、断熱性を高めるため、外壁を複層にしたり、ハウス内の影を少なくするため、散乱光パネルを用いたりするなどの工夫がされ、どのように菊が育つかの実験がされています。「実証された技術を、農家さんに還元し、役立ててもらいたいです」と、田原市低炭素施設園芸づくり協議会の栽培管理責任者の古橋友雄さんは話されました。

田原市などが行う低炭素施設園芸づくりの取り組みは、これからの農業になくはならないものだと思います。菊栽培にも省エネや自然エネルギーを取り入れ、時代の変化に合わせて、変わっていくものを感じました。



## 「たね」の簡単＆おいしい『産直レシピ』

広報サポーターの「たね」が「旬を上手に、手軽でおいしく、誰にでも簡単にできる料理」をテーマに、今回は「ブロッコリー」を使ったレシピをお届けします。

### ブロッコリーの白和え

【材料 5人分】 1人分のエネルギー93kcal

- ブロッコリー 1房(250g) ●塩 少々
- 絹ごし豆腐 1丁(350g) ●すりごま 大さじ3
- 薄口しょうゆ 大さじ1 ●砂糖 小さじ1

#### 【作り方】

- ①絹ごし豆腐は水からゆで、沸騰したらザルに上げ、キッチンペーパーなどで包み少し重石をのせて水切りをします。
- ②ブロッコリーは食べやすい大きさに切り、少量の塩を入れたお湯でゆでます。
- ③すり鉢に、絹ごし豆腐・すりごま・薄口しょうゆ・砂糖を入れ、よくすり合わせます。
- ④ゆでたブロッコリーと、豆腐の和え衣を合わせます。



クリーミーな白和えです！木綿豆腐で作ると水分の少ない硬めの食感の白和えに。白和えという名前の通り、色をきれいに仕上げるために薄口しょうゆを使っています。

この白和えの衣は、どんな具材にも合わせることができます。ハウレンソウやニンジン、春菊なども白和えにしてみても、いかがでしょうか？



\*ゆでてサラダに和えもの、スープに、生のままフリッターにと活躍するブロッコリー！田原市が愛知県内一位の生産量です。ビタミンB、C、カロチンや鉄分を多く含む地中海原産の野菜です。



▲東部里山公園の池で遊ぶ子どもたち



▲5年目を迎えたしいたけ菌打ち体験

地域の話題

# 田原東部校区

## 自然に抱かれた安心・安全な郷里

田原東部コミュニティ協議会から  
豊かな自然を活かした地域住民の交流活動などについて  
お便りが届きました。



**田** 原東部校区は、豊かな丘陵が広がる自然環境に恵まれた地域です。また、人と人との結びつきが強いことも校区の特徴の一つです。平成20年には、御殿山地区に住宅団地が開発され、校区の人口は徐々に増えています。このような環境と人との結びつきを活かし、コミュニティ協議会では住民の交流を図る活動を行っています。

### 住民が憩い、環境を学ぶ里山

東部里山公園は、里山開発と連動させ、「自然と調和した公園」として整備されました。公園内には、炭焼き小屋やバーベキュー広場などがあり、住民の憩いの場となっています。特に、炭焼き小屋で作られる炭は大変好評です。



また、里山内に遊歩道を整備したことで、体験と参加を通じた自然環境を学ぶ場となっています。

### 親子で身近な自然にふれる

毎年2月中旬には、田原東部小学校に入学予定の園児と保護者を対象に、しいたけの菌打ち体験を行っています。卒園間近の園児たちにとっては初めての体験。最初は戸惑っていますが、自治会役員や地域の方の手助けで、徐々に笑顔があふれます。この活動は、菌打ちから収穫までの一連の工程を体験することにより、親子のふれあいや食育の一翼を担っています。

### 心を癒やすホタルの舞

田原東部小学校北側に整備された

ビオ・とうぶ池では、毎年6月になると多数のホタルが舞い、住民の心を癒やしてくれます。新設当初は水温の管理などが難しく、ホタルの幼虫の繁殖に苦労しました。しかし、現在ではホタルの餌（カワニナ）が安定して繁殖しており、池はだんだんと自然環境に近づいているようです。今後も、多くのホタルが舞うように環境整備に努めていきます。

### みんなが暮らしやすい校区に

田原東部校区は、住民が住んで良かった、暮らしやすいと喜びを感じることのできる校区を目指し、コミュニティ協議会と住民が力を合わせ、今後も校区の魅力向上に取り組んでいきます。



●ビオ・とうぶ



# 市民活動を応援するページ



市民活動紹介

## 里山保全 やまゆり 山遊里

### ～みんなで楽しみ未来につなぐ里山保全～

●平成24年度市民協働まちづくり事業補助金採択事業

**市民**が里山に親しめる環境づくりを目指し、地元自治会や子ども会と連携しながら、里山林の整備、樹木の有効活用に取り組んでいる団体です。

田原市の市民協働まちづくり事業補助金に採択された活動も今年で3年目です。里山の整備では、樹木の枝打ち、間伐、散策路の倒木処理、歩道の草刈りなどを行っています。資源の有効活用のため、間伐材で椅子や丸太椅子を作り展示販売したり、樹名板を作り、歩道付近の樹木に取り付けたりもしています。

また、市内の子ども会や衣笠小学校の児童と、会員が育てたドングリの苗木を植樹しています。里山の大切さを次世代に伝え、多様な生物が生息する環境を一緒に育てています。

今後も、みんなで楽しみながら里山林を整備し、誰もが気軽に利用できるような豊かで健全な森林環境を整えていきたいと思っています。



▲藤尾山(加治町)で間伐作業を行う会員

**お問い合わせ** 会長：本多 稔 ☎090-8185-1982

市民活動紹介

## 図書館フレンズ田原

### ～利用者の立場でよりよい図書館づくりを～

●平成24年度市民協働まちづくり事業補助金採択事業

「図書館フレンズ田原」の活動は、中央図書館の建設計画中に、利用者の立場からより良い図書館づくりを行うために始まりました。中央図書館が開館10周年を迎え、私たちの活動も20年がたちました。それらを祝う事業として、藪内正幸原画展「渡り鳥きぶん」を開催します。

動物画家と絵本作家として活躍された藪内氏は、渥美半島を渡り鳥の観測地として、この土地の自然をこよなく愛し、多くの渡り鳥の作品を描かれました。この絵画展は、図書館で市民活動を行っている団体と協力して実施します。活動の連携や広がり期待し、市民の皆さんとともに楽しみたいと思います。



#### 藪内正幸原画展「渡り鳥きぶん」

◆原画展

会 期 ●12月8日 ☎～14日 ☎ 午前10時～午後5時  
(入室は午後4時30分まで)

会 場 ●田原文化会館多目的ホール

◆講演会&amp;ギャラリートーク

日 時 ●12月8日 ☎ 午前10時～11時30分

講 師 ●藪内竜太氏 (藪内正幸美術館 館長)

会 場 ●田原文化会館多目的ホール

定 員 ●50名 (先着順)

参加料 ●無料 (ただし整理券が必要)

整理券 ●12月1日 ☎ 午前10時から、電話予約または中央図書館中央カウンターにて配布

主催：図書館フレンズ田原

協力 / お問い合わせ：田原市中央図書館 ☎23局 4946 NPO たはら広場 ☎080-6955-2167

### 田原市民活動支援センター

<http://www.city.tahara.aichi.jp/kyoudou/>

1 NPOや市民活動に関する相談を受け付けています。(毎週 ☎・☎・☎ 14:00～19:00 田原文化会館フリースペース)

2 このページおよび市民活動支援センターホームページに掲載する市民活動情報を募集しています。

●お問い合わせ：☎22局 1111 (内線812) ※ 開設時間のみ ☎23局 0180 ✉shiminkatsudo@city.tahara.aichi.jp



# スクールレポート

SCHOOL REPORT 52

学校生活の  
一コマを紹介

今回は、小学校での学校行事「海に親しむ日」の様子と、「和太鼓の演奏」の様子をご紹介します。

●学校教育課 ☎ 23局3679

## 神戸小学校「海に親しむ日」

### ふるさとの海で地域の魅力を再発見！

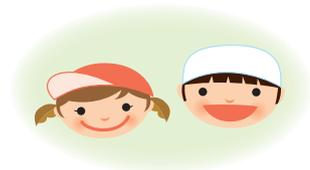
神戸小学校の特色の一つである「海に親しむ日」は、今年で9年目になる学校行事です。この行事は、子どもたちが、ふるさとのよさを発見することをねらいとして秋に開催しています。

東ヶ谷の海岸に全校児童が集合し、活動を始めます。5・6年生は地元の網元さんの協力と指導を得て、地引き網を行います。その間、1～4年生は海岸清掃をしたりサンドレリーフを作ったり、さまざまな活動しながら待ちます。5・6年生の引いた網が砂浜に引き揚げられると、あちらこちらで子どもたちの大きな歓声があがります。魚が網を飛び越えて跳ね、大漁の予感。このワクワク感が子どもたちに伝わり、いよいよ魚とのふれあいタイム、です。魚の種類が多さや活きのよさに、行事の盛り上がりは最高潮に達します。最後は、海風に吹かれながら、お弁当とPTA役員の方々に準備していただいた豚汁をほおぼります。

天候などにより「海に親しむ日」の活動がなくなることもあります。子どもたちはこの行事が大好きです。この海での行事を通して、子どもたちは、さらにふるさと神戸への愛着を深めているようです。



●大漁だった地引き網



●学芸会での和太鼓演奏

## 高松小学校「和太鼓演奏」

### 豊かな心を育てる伝統芸能！

高松小学校では、平成22年度から、5・6年生が地域の和太鼓グループ「龍宮」の方を講師に迎え、和太鼓演奏の指導を受けています。短期間に集中して練習し、「楽～RAKU～」という題名の楽曲を学芸会で発表しました。体育館に響く太鼓の音は迫力があり、地域の方々に好評でした。この年は、講師の方から和太鼓をお借りしましたが、平成23年に魅力ある学校づくり事業で長胴太鼓を3台揃えました。子どもたちは、自分たちの和太鼓で練習することができる

ようになり、5年生と6年生がペアになって演奏の仕方を教える姿も見られるようになりました。この活動を通して子どもたちは、日本の楽器や伝統芸能にも興味を持つようになっています。今後も、和太鼓演奏を高松小の伝統として育てていこうと考えています。





▲寝たきりの方などに行われる手浴を体験できるコーナー

10月19日(金)  
みんなが集まり  
笑顔日和!

田原福祉専門学校の学園祭「たつぷく祭」が10月19日(金)・20日(土)に開催されました。学生たちの手づくりで毎年行われているこの催し。地域や福祉施設から大勢の方が訪れ、模擬店や福祉体験コーナーなどで学生たちと交流を深めました。



▲市長から「今後の活躍にも期待している」と祝福された鈴木さん(写真中央)

10月22日(月)  
波を乗りこなし  
全日本大会制覇!

全日本サーフィン選手権大会のロングボードマスターの部(45歳以上)で優勝した鈴木弘章さん(赤羽根町)が市長を表敬訪問しました。鈴木さんは「21年ぶり2回目の優勝ができてうれしい。来年も優勝したい」と喜びを語りました。

**頑張れ! 田原っこ**

全国大会などに出場を決めた皆さんをご紹介します。皆さんの活躍に期待します!

◆ジュニアオリンピック陸上競技大会  
(神奈川県横浜市「10/26~28」)

男子100M  
和田瑞輝くん(田原中2年)

男子1500M  
鈴木琢海くん(福江中1年)

◆JOCジュニアオリンピックカップ2012  
(埼玉県越谷市「11/16~18」)

◎ファンタジスタS.C

カテットの部

川口浩寛くん(福江中2年)

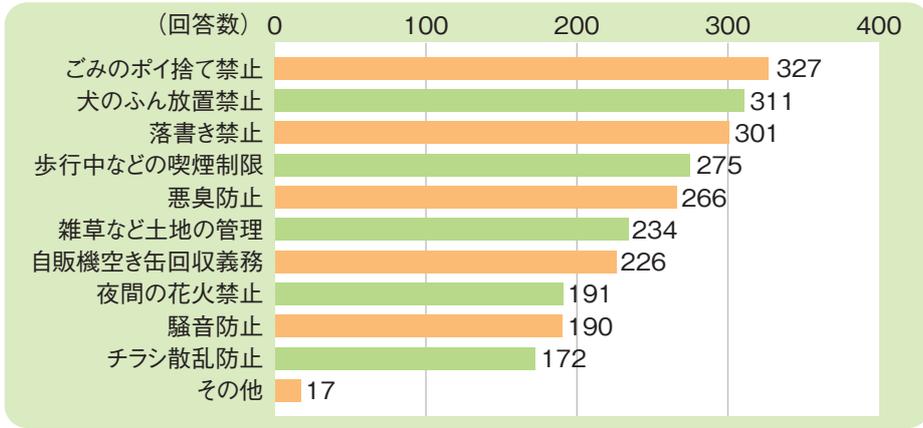
山本駿介くん(福江小5年)

川口育寛くん(福江中1年)



平成24年4月に20歳以上の市民の中から1000人を抽出し、アンケートにお答えいただきました。(回答者数442人)

田原市では、生活環境に関する施策へ市民の声を生かすため、市民アンケートを行いました。今回は、そのアンケート結果の概要についてご紹介します。

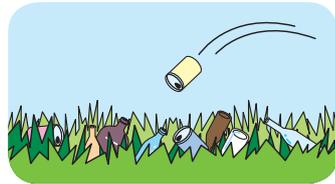


Q1 田原市の生活環境を守るために、条例で定めるべき項目は何だと思えますか。(複数回答可)

Q2 田原市の生活環境を守るために必要なことは何だと思えますか。自由にお書きください。

【主なご意見】

● 雑草だらけの土地は、ごみのポイ捨てを誘発している。除草をしっかりとすれば、ポイ捨てもなくなる。



● 通学路に犬のふんの放置が目立つ。飼い主はしっかりと片付けてほしい。



● 肥料の臭いが気になる。など



Q1の回答では、ごみのポイ捨て禁止、犬のふんの放置禁止、落書きの禁止などが上位を占めました。Q2の自由意見では、雑草の除去などの土地の管理や、悪臭の防止などの意見が多く寄せられました。

田原市では、毎年6月に行われる田原を美しくする推進デーやボランティアによる清掃活動などに多くの市民の方が参加され、環境美化に関する意識も高まっています。犬のふんについては、看板を設置し、飼い主が必ず片付けるように啓発しています。



しかし、残念なことに、道路や公園に捨てられたごみや、放置されたままの犬のふん、生い茂った雑草などをよく見かけるのが現状です。田原市では、今回のアンケート結果を踏まえ、現状を改善し住みやすい生活環境を守るために条例化を検討していきます。



▼ 清掃管理課 ☎23局3538  
▼ 環境衛生課 ☎23局3541

# 交 流 通 信

【国内外との交流・多文化共生】

## 成章高校とスコット高校との交流

成章高校と姉妹校スコット高校との交流についてご紹介します。

### ●姉妹校として交流

田原市とジョージタウン市が姉妹都市提携(平成2年)したことをきっかけに、田原市内にある愛知県立成章高校と米国ジョージタウン市内にあるスコット高校は平成3年、姉妹校提携をしました。

成章高校の生徒がジョージタウン市を初めて訪問したのは、平成3年8月。また、スコット高校の高校生が田原市を初めて訪問したのは、平成6年10月です。以来、相互訪問による高校生同士の交流は、現在も続いています。

### ●相互訪問で現地での学校生活を満喫

今年の8月17日から8月26日まで、成章高校の生徒10名がジョージタウン市を訪問しました。ホームステイに加えて、スコット高校で学校生活も体験しながら、交流を深めました。また、6月5日から7月25日まで、スコット高校の生徒3名が田原市を訪問しました。



▲スコット高校生徒が成章高校で英語の授業を体験

### ●スコット高校の卒業生が田原市のALTに

田原市のALT(英語指導助手)の1人、キム先生は、スコット高校の卒業生です。高校生の時に日本語コースを選択。そして、姉妹校交流プログラムで田原市を訪れました。その経験を生かしながら、現在、田原市内の小・中学校で活躍しています。



▲キム先生(写真左)の授業

▶広報秘書課 ☎22局0138

●**校区防災備蓄倉庫**  
田原中部校区に2棟、その他19校区に各1棟の計21棟あります。担架やハンマー、ボールなど、救助・救出に必要なものと、毛布やテント、リヤカー、発電機、投光器など、避難生活に必要なものが入っています。



●**台風や大雨への備え**  
田原町、赤羽根町、江比間町、福江町、中山町にあります。杭や土のう袋、シャベル、のこぎりなどが入っています。

●**水防倉庫**  
こんにちは、けんちゃんです。災害に備え、市内には水防倉庫や防災備蓄倉庫があります。どこにあつて何が入っているのか、皆さん、ご存じですか。今回は、防災倉庫などについてご紹介します。

●**拠点防災備蓄倉庫**  
田原町の大手公園に隣接しています。アルファ化米などの食糧や飲料水、テント、毛布、簡易トイレなどが入っています。  
※江戸時代に田原藩が渡辺華山の指導により、災害に備えて民のために食糧を蓄えた倉「報民倉」にちなみ、整備したもの

●**地域の防災倉庫の場所を知ろう**  
これらの他に、市役所や赤羽根市民センター、渥美支所、福祉センターなど公共施設にも食糧や資機材を備蓄しています。  
また、多数の自主防災会が自分で防災倉庫を整備しています。いざというときのため、自分の地域にはどこに防災倉庫があるのか、確認してみましよう。

▼防災対策課 ☎23局3548



けんちゃん

防災知恵袋

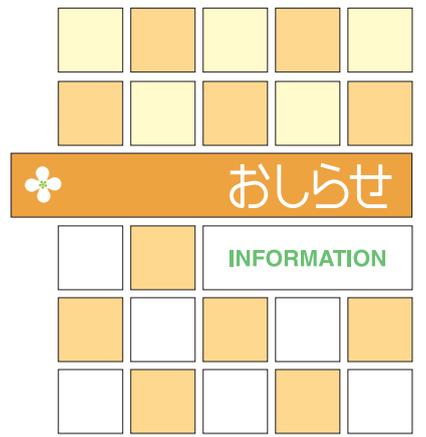
19



みんなできり組む防災・減災

災害への備え 防災倉庫

田原市報民倉



# 募集

WANTED

## 田原市臨時職員 (田原市博物館企画展監視員)

- ▼募集人員 10名
- ▼対象 健康な方
- ▼採用期間 平成25年1月5日(土)～2月11日(月・祝)
- ▼勤務内容 田原市博物館の展示室監視
- ▼勤務形態 週4日程度(土・日曜日勤務あり)
- ▼勤務時間 午前9時～午後1時と午後1時～5時の交代勤務
- ▼賃金 時給830円
- ▼選考方法 面接(詳細は後日通知)
- ▼応募者多数の場合は書類選考あり
- ▼申し込み 11月30日(金)までに田原市博物館にある履歴書に必要事項を記入のうえ開館時間内に提出(郵送不可)

▼田原市博物館  
☎22局1720 FAX23局3770

## 田原菜の花エコプロジェクト体験 「菜種の搾油体験とエコキャンドル作り」

小型搾油機による菜種の搾油体験と、廃食用油を利用したエコキャンドルづくりを行います。クリスマスシーズンにぴったりの環境にやさしいキャンドルを作ってみませんか。

- ▼対象 小学生～一般(小学生は保護者同伴)
- ▼日時 12月16日(日) 午前10時～11時30分
- ▼場所 田原文化会館
- ▼定員 30名(先着順)
- ▼参加料 無料
- ▼申し込み 電話またはFAXにて(FAXの場合は、住所・氏名・生年月日・電話番号を明記)
- ▼エコエネ推進課

☎23局7401 FAX23局0180

## 平成25年度 「児童生徒文化体験教室」講師

児童・生徒を対象に、年間を通して文化体験教室を実施していただける講師の方を募集します。

- ▼開催期間 平成25年4月～平成26年3月
- ▼開催回数 原則として月1回以上、年12回以上
- ▼謝礼 3000円/1か月(会場の都合などで1か月の間に2か月分を実施した場合)

た場合は2か月分を支払います)

- ▼開催教室予定数 24教室 ※教室開催希望者(グループ・団体)が多数の場合は多種目となるよう選定。なお、受講生が10名以下の場合には開催しません。
- ▼その他 会場については市民館、文化会館などの公共施設の利用を基本とします。
- ▼申し込み 生涯学習課にある所定の開催希望調書(市教育委員会ホームページからダウンロード可)に必要事項を記入のうえ、12月12日(水)までに直接またはFAX・Eメールにて
- ▼生涯学習課

☎23局3531 FAX22局3811

✉syogaku@city.tahara.aichi.jp

🌐http://www.city.tahara.aichi.jp/section/kyoiku/index.html

## 普通救命講習会 受講者

家族や友人が目の前で倒れた時、あなたは何かできますか。心肺蘇生法とAED(自動体外式除細動器)の取り扱いを学ぶ普通救命講習会を開催します。

- ▼対象 市内在住・在勤・在学の方
- ▼日時 12月9日(日) 午前9時～正午
- ▼場所 消防署赤羽根分署
- ▼定員 20名(先着順)
- ▼参加料

無料

▼その他 講習修了者に修了証交付

▼申し込み 12月7日(金)までに直接または電話・FAX・Eメールにて(FAX・Eメールの場合は、件名・住所・氏名・生年月日・性別・電話番号・職業を明記)

▼赤羽根分署

☎45局4119 FAX45局4120

✉akabaneb@city.tahara.aichi.jp

## 第7回危険物取扱者試験

- ▼種類 甲種・乙種全類・丙種
- ▼対象 一般
- ▼日時 平成25年1月27日(日)
- ▼場所 名古屋市内
- ▼申し込み ①市役所消防課または消防署・各分署で配布される受験願書に必要事項を記入のうえ、12月10日(月)～12月19日(水)の期間に郵送
- ②12月7日(金) 午前9時～12月16日(日) 午後5時の期間に財団法人消防試験研究センターホームページにて電子申請
- ▼その他 テキストおよび事前講習会については、お問い合わせください。

●財団法人消防試験研究センターホームページ

🌐http://www.shoubo-shiken.or.jp/

▼消防課

☎23局4074 FAX23局0180

東三河人にやさしい街づくり  
講座・セミナー 受講者

人によさしい街づくりとは、誰もが安心して暮らし、気軽に出かけられる街をつくっていくことです。お気軽に、セミナーや座談会にご参加ください。



●セミナー

▼日時 12月2日(日)  
午前9時30分～午後0時30分

▼テーマ 発達障がいを知り、人によさしい街づくりを考える

▼定員 50名程度(先着順)

●座談会

▼日時 12月2日(日) 午後1時30分～4時

▼テーマ 発達障がい者にとって、やさしい街とは何か?

▼定員 50名程度(先着順)

【共通事項】

▼対象 誰でも 場所 新城市消防防災センター2階講堂

▼受講料 無料 申し込み 11月28日(水)までに電話またはFAX・Eメールにて

(FAX・Eメールの場合は住所・氏名・電話番号を明記)

▼建築課

☎23局3526 FAX22局3811

✉kentiku@city.tahara.aichi.jp

生活

田原市民俗資料館を  
臨時休館します

田原市民俗資料館は資料整理のため、次の期間、臨時休館します。ご迷惑をおかけしますが、ご理解とご協力をお願いします。

●臨時休館期間 12月1日(土)～平成25年1月31日(木)

▼田原市博物館 ☎22局1720

年末の交通安全県民運動  
12月1日(土)～10日(月)

年末年始を迎えるこの時期は、最も交通事故が多発する時期です。飲酒運転は絶対にやめ、思いやりある運転で交通事故をなくしましょう。

●運動重点

●飲酒運転を根絶しよう

●子どもと高齢者を交通事故から守ろう

●夕暮れ時と夜間の歩行中・自転車乗車中の交通事故をなくそう

●すべての座席でシートベルトとチャイルドシートを正しく着用しよう

▼市民協働課

☎23局3504 FAX23局0180

年末の安全なまちづくり県民運動  
12月1日(土)～20日(木)

地域の皆さんと防犯協会や警察、市が協力し合い、身の回りに危険を及ぼす犯罪を未然に防ぐ活動を行います。地域ぐるみで防犯活動に取り組み、安心して暮らせるまちを目指しましょう。

●運動の重点

●ひったくりなど街頭で発生する犯罪の防止

●住宅を対象とした侵入盗の防止

●年間取組事項 自動車関連連盗の防止

●子どもと女性が被害者となりやすい犯罪の防止

●振り込め詐欺の被害防止

▼市民協働課

☎23局3504 FAX23局0180

人権週間

12月4日(火)～10日(月)

人権は、私たち一人ひとりの生命や自由・平等を保障し、日常生活を支えている大切な権利です。

日常生活を振り返って、「他人の権利を侵していることはないだろう

か」「自分の人権が侵されていないだろうか」など、身近なことから人権を考えてみましょう。

日ごろの生活の中で「人権問題ではないだろうか」と感じた方や「法律上どのようなになるのか」など困りの方は、お近くの人権擁護委員または法務局にご相談ください。

▼名古屋法務局豊橋支局

☎(0532)54局9278

FAX(0532)54局9280

◆1日350gの野菜を摂取しましょう!

厚生労働省では、健康を維持するために必要な野菜の摂取目標量を成人1日当たり350g(小鉢5皿)以上としています。野菜はビタミン、ミネラル、食物繊維などの重要な供給源で、健康の維持・増進に不可欠な食品です。最近の研究では、野菜に含まれる成分の複合的な作用が、循環器疾患やがんの予防に効果的であると考えられ、野菜の摂取量が多い人は少ない人に比べて、がんの発症率が低いなどの研究成果も報告されています。

新鮮で安全安心な地元の野菜を積極的に活用し、バランスの良い朝食を食べることから始めましょう!

▶農政課 ☎23局3517



# 歴史探訪

## クラブ

History Inquiry Club



文化財課 ☎23局3635  
FAX 22局3811

### 渥美半島の葉タバコ栽培②

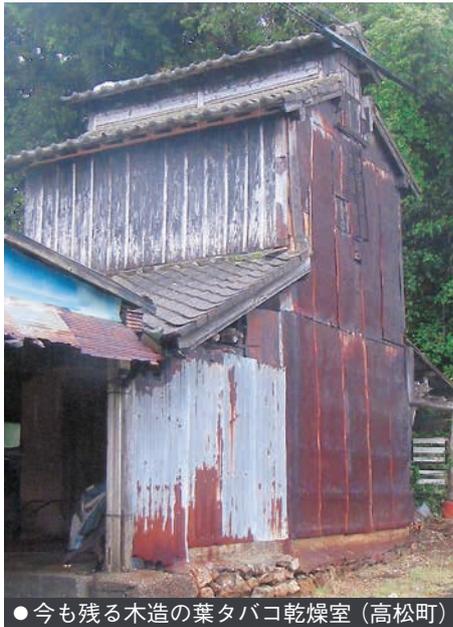
葉タバコの栽培には、ほかの作物にはない特徴があります。収穫後にタバコに加工・製造が行われる工芸作物であることです。また栽培は日本専売公社（現在は日本たばこ産業株式会社）が管理し、その需要に応じて栽培をしていました。最も大きな特徴は、栽培農家が葉の乾燥までを行っていることです。

日本で栽培された葉タバコの黄色種は、人工的に乾燥させなければいけないので、栽培農家は乾燥するた

めの施設を作りました。

当初は、二間（約3・6m）四方の木造土壁の乾燥室が作られました。切妻瓦葺の屋根に、越屋根と呼ばれる排気のための小屋根がのっけています。他の建物と違いずんぐりとした塔にちよこんとのつた越屋根が、かわいらしさを感じさせます。この中に葉を藁縄で結んでつるし、下から薪で火をたき、その熱で乾燥させるのです。少しでも効率よく乾燥させるため、縄でつるした葉を4・5段にも上につるしていくので、このような構造となっていました。

葉タバコの乾燥で重要なことは、ほどよい乾き具合と発色です。仕組みは単純ですが、温度管理などは長年の経験と技術が必要です。乾燥は三日三晩も行う過酷な作業ですが、ここで仕上がりに大きな差がでるのです。燃料は、初めは薪でしたが、次にコークス、その後は灯油が使われるようになりました。建物は鉄骨造など、素材はさまざまだったよ



●今も残る木造の葉タバコ乾燥室（高松町）

うですが、大草町ではコンクリートブロック造で作られていました。さらに乾燥室は、既製品のコンテナへと変化していきます。栽培が盛んだった中山町では、組合でコンテナを入れる共同の乾燥施設を作り、組合員の乾燥作業を効率化していたそうです。

渥美半島で一時代を築いた葉タバコ栽培。かつては国道42号を走ると、赤土の畑にポリウムのあるタバコの葉の緑が夏の日差しにまぶしく感じられたものでした。最近この景色を見ることがなくなったので、葉タバコ栽培の記録を少しでも残す必要を感じ、大草町の太田良治さんに取材をしたのです。お話を伺った中で、

特に印象に残ったことがあります。

「葉タバコは栽培と乾燥加工の二重の難しさがあり、どちらもうまいかなければいけない。だからこそ自分の理想とした出来栄えに喜びも二重だった」と誇らしげに話されたことでした。また、時代の移り変わりに対応した栽培方法や農具、農材の变迁は、実に興味深いものでした。

葉タバコに限らず、農家の皆さんは、さまざまな工夫や努力をされているんだと、また私の「田原自慢」が増えました。そして、これらの渥美半島を支えた産業を、少しずつ書き留めておく必要を感じました。

【お詫びと訂正】10月15号の歴史探訪クラブの2段目9行目の「神戸町」は「神戸村」の誤りでした。お詫びして訂正します。

（増山）

### 今月の「表紙」

▼渥美半島の秋の風物詩  
といえ、電照菊の夜景。

その絶好の夜景スポットから撮影しようとして、赤羽根文化の森へ登りました。目の前に広がる色とりどりの光のパノラマに、言葉も出さずに見とれていた私。時間が経つにつれ、次々とカラフルな光が灯っていく温室に、時代の変化を感じました。(O)

【表紙の写真】赤羽根文化の森からの電照菊の夜景